

特集

# みずから つくるまち

北海道の旭川空港から車で10分ほどの場所にある東川町。この人口減少社会にもかかわらず、近年は人口が増加傾向にある。また、約8300人の町民全員が地下水だけで暮らす、日本でも珍しい町だ。

過去およそ25年以内に転入した「移住者」比率は56・6%。つまり今の町民の2人に1人が「よそから移ってきた人」だ。移住した人たちは、東川町にどんな魅力を感じたのだろうか。

一方、もともとこの地に住んでいる人たちは、1985年(昭和60)に「写真の町」を宣言するなど一風変わった施策を講じるこの地にどんな愛着をもち、地域にかかわっているのか。

美しい大雪山連峰に育まれた水を守り、教育に力を入れ、住民主体のイベントも活発な東川町を探り、今後の地域社会のあり方と、そこに「水」がどうかかわるかについて考えたい。



### Higashikawa-town

人口は8328人、世帯数は3879世帯(2017年12月31日時点)。面積は247.06km<sup>2</sup>(東西36.1km・南北8.2km)。

北海道のほぼ中央に位置し、北海道北部の中核都市・旭川市に隣接する。日本最大の自然公園「大雪山国立公園」の区域の一部であり、大雪山連峰の最高峰・旭岳(2291m)は東川町域となる。

1894年(明治27)、旭川村字忠別原野の殖民地として区画整理が行なわれ、1895年(明治28)に香川、富山、愛知、徳島県などが入植し開拓が始まる。1897年(明治30)12月、旭川村から分割して東川村と称するまでの2年半は旭川村の一部だった。

「平成の大合併」(1999年から政府主導で行なわれた市町村合併)では「単独自立」の道を選択した。

## 目次

### 巻頭エッセイ

- 2 ひとしづく 北海道の広い空 田中雅美

### 特集 みずからつくるまち

- 6 概論 「まちづくり」に今、必要なもの  
— 東川町に行くと未来が見える 鈴木輝隆
- 9 移住者の実像 東川で暮らす
- 19 写真文化首都 今日の東川町をつくった「写真の町」宣言
- 22 街並み・移住 みんなでつくる街並みと移住促進策
- 24 地元民 考えつづける「東川らしさ」が未来をつくる
- 26 イベント 町民の幸福感を増す「イベント」
- 28 農業 耕作放棄地のない道内有数の稲作地帯
- 30 まちづくり 水と人が巡るまち  
— 町長に聞く「東川町が元気な理由」 松岡市郎
- 34 地下水と水道 地下水を持続可能にする自然の恵みと人々の努力 滝沢 智
- 36 産業づくり 岐阜の杜氏が惚れた東川の「水」と「人」
- 38 周辺地域 一本芯が通っている町— 周辺から見た東川の評価
- 40 文化をつくる 北の大地の小さな町で「未来への開拓」進む 編集部

### Column

- 43 水の余話 現代に生きる海中渡御 陣内秀信

### 連載

- 44 水の文化書誌 57  
南北朝争乱期における筑後川の戦い 古賀邦雄
- 46 魅力づくりの教え 16  
〈つくる技術〉が受け継がれる森のまち 中庭光彦
- 50 センター活動報告
- 51 編集後記/ご案内 (敬称略)